

スポーツ庁 障害者スポーツ振興ワーキンググループ資料

桐蔭横浜大学 日比野暢子



インクルーシブが求められた社会背景

- 共生社会が主張された背景には、失業問題からの関心（Paugam, 1993）

フランス 1970年代 社会庁の役人ルノワールが

一部のグループの人が社会から排除されていると指摘

→ アルコック（1993）は、貧困問題がみられる集団は、①ジェンダー、②人種、③年齢（子ども、高齢者）、④障害者との指摘

→ ヒルズほか（2002）は、①障害者、②ひとり親、③保険未加入の失業者、特に青年たちなどであると指摘

エックスクルーシブな（排除されるような）社会ではなく、インクルーシブな（包摂されるような）社会が重要との議論が1980年代後半の欧州で広がる

※ 個々のグループでの様々な権利に対する運動はあった（例：障害者）



パラスポーツの視点から



イギリスの法の変遷

- 1989年『Building on Ability』
イギリス国内初の障害者スポーツ現状調査報告書が障害者団体によって実施。その報告書は議会に提出された。報告書の提案事項に、障害者団体外との関係性を深めていくことは重要と示唆
- 1993年政策文書
一元化の重要性を説く
- 1995年障害者差別禁止法施行
- 2008年責任の所在の明確化
全てのNFは全ての国民にその種目の推進、育成、強化に対し責任がある
- 2010年平等法施行



イギリスの定義

スポーツにおける一元化（mainstreaming）とは

一般のスポーツ協会や、健全者向けのプログラムを推進する協会などが、障害者に対しても同様の運営をすること

イングランド障害者スポーツ協会；UKスポーツ；スポーツイングランド
(2004)

* 田中暢子訳（2007）



一元化な支援での難しさ

「“障害者は何もできないのではないか”、“ほら、できないじゃないか”・・・そのような言葉をたくさん（競技団体から）言われた。だから、そのたびに“こうすればいい”と方法を教えてみた。障害者側も、医療福祉関係者以外との接触体験が少なく、うまく人間関係を構築できていなかった。だから、競技団体関係者が障害者と接する機会を積極的に設けた。障害者と競技団体関係者が接していくうちに、スポーツのつながりができ、障害者が地域でスポーツ活動を行う場が整い始めた。まだまだ十分ではないが・・・」

(Smedley, 2004, インタビュー, cf: Tanaka N., 2004)

⇒ 接触体験の場の拡大...



オーストラリアの事例

- 1993年障害者差別禁止法 (Disability Discrimination Act)
- 1995年代には2つの施策 ①障害のあるアスリートへの指導法 (Coaching Athletes with Disabilities) 【総論/障害種別ごとの指導書】 ②Willing and ableのプロジェクトの一環として『Give it a Go』 (地域のスポーツや学校体育の参加促進) の出版
- 知的障害者スポーツ関係者からのノーマライゼーションの考えに基づいた提案
- 2010年には、障害、人種、ジェンダーを超えた推進体制がオーストラリアスポーツコミッションの中に創設。但し、批判や戸惑いもあり。



近年の国際動向

- スポーツ界におけるDEIの推進

Diversity（多様性）, Equity（公正） and Inclusion（包摂）

誰を対象とするのか：障害者だけに特化しない動き
機会拡大をという声：障害者にも多様な機会を

- ▮ 「する」以外にも多様な機会を
グラスルーツからエリートまでの多様な機会を
「Welcome」という言葉で表現



他の国の事例

- イングランドサッカー協会

例：EDIカレンダー

様々な形、本人の希望により競技するレベルを設ける

- ドイツサッカー協会 障害のある人が審判に

例：聴覚障害者の審判員

発達障害者の審判員 等



我が国における一元化（メインストーリーミング）

2013年9月、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の招致
2014年4月より、障がい者のスポーツ（競技スポーツと生涯スポーツ）
の所管省庁は 厚生労働省から文部科学省へ。



変わったことの例

1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、強化政策をオリパラ一緒に検討されるように
2. 競技団体がパラスポーツと推進・連携の取り組みの始まり
例：日本サッカー協会のFootball for All宣言



日本サッカーの場合

- 組織としての姿勢を見せる
2014年のグラスルーツ宣言後、より推進
「年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、だれもが、いつでも、どこでも。」
- 仕組みをつくる
障害者サッカー連盟と日本サッカー協会
指導者講習会、情報の提供、機会の担保、強化等
- アクセス・フォー・オール宣言（2024年4月）



まとめ

- 障害者にも多様な機会を
 - 多様な機会とは何かを今一度問う必要性
 - 組織的に体制的に入れ込んでいく必要性があるのでは
 - スポーツ界の社会資源をより効果的に活用する方法の再検討
- DEIの視点やインターセクショナルリティの視点も重要
- パラスポーツ界だけでなく広い世界での議論を
- 政策は風邪薬ではない。10年後には必ず変化がある
(Houlihan, 2013, インタビュー)



参考資料

Alcock Pete (1993) Understanding Poverty, the 3rd edition, Palgrave: London.

Hills John, Grand Le Julian, Piachaud David (2002) Understanding Social Exclusion,
Oxford: London

Paugam S. (1993), La société française et les pauvres, Paris: Presses Universitaires de France,
Coll. 'Recherches Politiques', (2nd édition 1995).

他

